

加藤 英一 (Eiichi Kato)

ツーリズムリアス代表 / 気仙沼観光推進機構認定観光ガイドKOMPASSリーダー / ニカ国語ガイド（日本語・英語）



【略歴・プロフィール】

宮城県気仙沼市生まれ。大学卒業後に渡米し、約2年間オレゴン大学へ語学留学。帰国後、家業のディーゼルエンジン販売会社にて貿易業務に携わる。その後、系列の観光ホテルへ転職し、専務を経て約20年間にわたり社長を務める。

2011年の東日本大震災直後より、多くの避難民にホテルを開放し救急救命支援活動を実施。以降ホテルは避難所となり、管理運営責任者として約70日間その役割を全うした。

現在はツーリズムリアス代表、気仙沼観光推進機構認定観光ガイドKOMPASSリーダー、けせんぬま震災伝承ネットワーク震災語り部として、日英2か国語で精力的にガイド活動を行っている。



伝承館での現地語り部ガイド



外国人グループへの英語案内

【主な活動内容】

- ・ **観光・まち歩き** 気仙沼市観光ガイド、気仙沼魚市場ガイド、まち歩きガイド
- ・ **震災伝承** 震災講話、気仙沼市東日本大震災伝承館 語り部ガイド
- ・ **ニカ国語対応** 日本語・英語でのツアー＆講話に完全対応

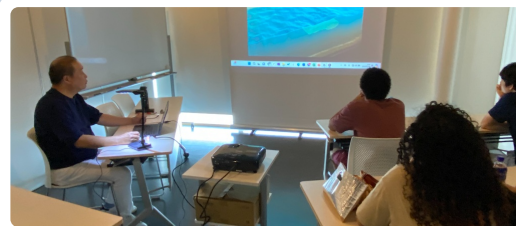
【これまでの受入・ガイド実績】

震災後、気仙沼を訪れた一般・各種団体・各種学校・各種研修会等で多数のガイドを担当。

- ・ **国内教育機関・高校・大学：**
京都大学、中央大学、西武文理大学、神戸灘高校、広島舟入高校 ほか多数
- ・ **海外・国際研究機関：**
マサチューセッツ工科大学（MIT）、ロイヤルメルボルン工科大学（RMIT） ほか多数



大規模ホールでの震災講話



映像資料を用いた小グループ講話

【震災講話 / Witness Storyteller として】

震災当時、自宅は津波により流失。かろうじて津波の直撃を免れた会社（ホテル）に居たことで命拾いし、その後その場が避難所となったことで、未曾有の現場管理を経験いたしました。

当事者であり目撃者（Witness）である立場から、現場での生々しい体験をもとに、**緊急事態において命を守るための貴重な教訓**を交えた震災講話をお伝えします。